



©Takashi Iijima

佐渡裕&スーパーキッズ・オーケストラ

26歳でアメリカに行きその後の指揮者としての私の背中を押してくれたと思います。

芦屋は、高級住宅地のイメージしかなかったですが、実際に住んでみるとすごく住みやすいまちですね。

芦屋のイメージを教えてください —

例えばJR駅付近のスーパーや食べ物屋さんを見てもそうですが、何をしても芦屋の街の中ですべてが完結できる。

私はゴルフが好きなので、車ですぐに芦屋カンツリー倶楽部(ゴルフ場)に行ける。芦有を使えば有馬温泉も近い。飲食店が美味しいのは当然ですが、値段設定も絶妙です。芦屋の女性たちは、意外にシビアですから高すぎても行かないし、安いだけでも行かない。女性心をくすぐるちょうど良い店だけがある、それが芦屋らしいなと思います。

小学生の時に何か大きなことをイメージして夢を持つことは、とても大切なことです。

芦屋の子どもたちへメッセージをお願いします —

小学生の時に何か大きなことをイメージして夢を持つことは、とても大切なことです。私の夢「ベルリン・フィルで指揮をとる」は50歳で叶いました。私の尊敬する人がよく口にしていた言葉に「夢を叶えるためには努力・才能・運が必要で、これらは足し算される。そこに『ありがとう』と思える感謝力が加わる。感謝力は掛け算になる。感謝力が1.5倍ある人は、自分の持っている努力・才能・運すべてが1.5倍になる。」これが夢を叶える一つの方程式のような気がします。

すごくしんどくて、とても「ありがとう」なんて言える状況ではない時に、泣きながら叫ぶように「ありがとう」と言ってみたことがあります。そうすると言葉には不思議な力があって、ポジティブな気持ちを与えてくれる。そのことが自分自身を救う。スランプを脱出する一つの方法だと思いますね。

小学生の皆さんは、ものすごくいっぱい可能性を持っている。自分で「これだ!」と思うもの「天職」を探してください。天職は人それぞれです。家庭を守ること、モノ書きになること、舞台上で表現すること、病院で人の健康を守ること。地位とか名誉とか関係なく、これが自分が天から授かったものだと感じ、それで報酬をもらって生きていける。こんな幸せなことはありません。ぜひ天職を見つけてください。

小学生の皆さんは、ものすごくいっぱい可能性を持っている。自分で「これだ!」と思うもの「天職」を探してください。天職は人それぞれです。家庭を守ること、モノ書きになること、舞台上で表現すること、病院で人の健康を守ること。地位とか名誉とか関係なく、これが自分が天から授かったものだと感じ、それで報酬をもらって生きていける。こんな幸せなことはありません。ぜひ天職を見つけてください。



ルナ・ホールにて



©Takashi Iijima

ない風、感じている空気があることを知り、自分もその世界を感じてみたいと真剣に思った瞬間です。

小学校の卒業文集に「大人になったら、ベルリン・フィルの指揮者になりたい」と書きましたが、その時は何か大きなことを書きたい程度のことでした。高校・大学と音楽専門の道に進み、自分の中で「指揮者になりたい」気持ちが募っていきました。当時、周囲の人たちに「指揮者になろうと思う」と伝えると、「やめとけ、やめとけ」と皆に止められましたね。そりゃそうですよね、私も周囲の人もプロの指揮者にどうすればなれるの分かりませんでしたから。

26歳でタングルウッド音楽祭に受かってアメリカに行くまでは、どんなことをしていましたか —

大学3回生の時「指揮をすることでお金をもらって生きていこう」と決意し、ママさんコーラスの指導を1回3,000円からはじめました。昼間は大学の吹奏楽部やママさんコーラスを教え、夕方からオーケストラを稽古し、夜はカラオケの録音作業もしていました。高音用・中音用・低音用の3種類を録音しないとイケないアナログの時代でしたから夜中の1時ぐらいまでやっていましたよ。

20歳からの6年間、ありがたいことに色々な所から仕事をいただきましたが、小学校の卒業文集に書いた「ベルリン・フィルの指揮」なんて当時は宇宙に行くみたいな夢の話でした。稽古の合間の休憩中にふと「俺はこのまま音楽の道続けて幸せになれるのかな」って頭をよぎることもありました。長い稽古が昼から夜まであって、その間に晩飯を食べたら、それで赤字でしたからね(笑)。でも、「佐渡さんの指揮で音楽を作るのが楽しい」この時期に出会った皆さんの声が、私に力を与え、

佐渡 裕 Yutaka Sado

プロフィール



京都市立芸術大学卒業。故レナード・バーンスタイン、小澤征爾らに師事。1989年新進指揮者の登竜門として権威ある「ブザンソン指揮者コンクール」で優勝。1995年「第1回レナード・バーンスタイン・エルサレム国際指揮者コンクール」優勝。「レナード・バーンスタイン桂冠指揮者」の称号を授与される。2015年9月より、オーストリアを代表し100年以上の歴史を持つトーンキュンストラ管弦楽団音楽監督に就任し、欧州の拠点をウィーンに置いて活動している。国内では「サントリー1万人の第九コンサート」を1999年以降毎年指揮し、兵庫県立芸術文化センター芸術監督、シエナ・ウィンド・オーケストラの首席指揮者を務める。芦屋市在住。